



遠藤 ハル子 議員



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

保育士の配置基準の改善を

村中町長

今後も安心安全な保育に向け 必要な人員配置に対し支援する

■質問・遠藤議員
子どもたちの命や安全を守ることや発達を保障するためにも、保育士の配置基準の改善は緊急の課題です。その背景には、長年変わらない保育士の配置基準があるのではありませんか。

日本では児童福祉施設の最低基準が75年前の1948年につくられ、「最低基準を常に向上させるように努めるものとする」としてきたものの、現在3〜5歳児に対する配置基準は、経済協力開発機構(OECD)調査国・地域で最下位です。

国に先立ち現場からの声を聞き、比布町でも緊急に町として保育士増のために今の配置基準を見直す考えはありますか。

■答弁・村中町長
配置基準は、これまでも「中央児童福祉審議会」の意見具申などを受け見直しが行われており、平成27年には、地域の子育て支援の拡充や保育の質の向上、待機児童解消を目的に導入された「子ども子育て支援新制度」により小規模保育事業など地域の実情に応じた支援が図られるようになりましたが、配置基準自体は、0歳児3名に対し保育士1名、1・2歳児では6名に対し1名、3歳児では20名、

4歳以上児は30名にそれぞれ1名と定められています。この基準は平成10年以降変わっており、国基準では必要な保育を行うための人員が不足であり、子どもの安全を守れないとの声が保育現場から上がっています。

国では、送迎バスに置き去りにされた園児が亡くなるという痛ましい事案など、昨今繰り返される保育所での事件や事故を受け、令和5年4月から保育所に対し、園内外の施設・設備の安全点検、職員等への安全指導の取組みなど園児の安全確保に関する計画策定を義務化しますが、その要因の一つには、現場における保育士不足もあると考えられます。

くるみ保育園には、現在、特別な支援を要する園児も複数名在籍しており、保育士一人ひとりの役割がこれまで以上に複雑かつ大きくなっています。町では、特別な支援が必要な園児の保育に対し、国基準を上回る保育士を配置した際に生じる経費の不足分をこれまでも全額助成しています。

町独自の配置基準を設ける予定はありませんが、今後も保育園と協議の上、安全・安心な保育に向けた必要な人員配置に対し、継続した支援を行ってまいります。

■北川教育長
当面は現在の基準で運用し、オンライン学習や休業期間中の活用機会が増えることにより通信費の家庭負担が増えることがあれば支給拡大を検討していきますので、ご理解をお願いいたします。また、今後も保護者の経済状況や健康上の問題など様々な理由によって子どもたちの学習環境が脅かされる場合における就学援助制度の周知を図ってまいります。



一般質問 ズバリ！ ここが聞きたい

個性を尊重する教育づくりを

北川教育長

子どもたちが生きる力を身につけ 自立できる教育に尽力したい

■質問・植西議員
優秀な生徒を育てるより、落ちこぼれをなくし、すべての子どもたちに希望を与えることを真に教育の目標とすべきではありませんか。

■答弁・北川教育長
子どもたちが自らの生き方を考え、夢や希望を実現させる意欲や社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を体験や経験、多様な人との関わりを通して育むとともに、子どもたちが社会の一員で主権者であるという自覚ができるよう、発達段階に応じた一貫性のあるキャリア教育が求められています。

これまで当たり前だった日常生活が大きく変わり、予測困難な時代が到来する中、誰一人取り残さない、多様な学びと安心な居場所を築くとともに、子どもたち一人ひとりが新たな夢や希望を描き、追い続けることが一層重要で、

本町の子どもたちが「生きる力」を身につけ、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面すると予想される様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくことができます。教育に全力を尽くしていきます。

■植西議員
子どもたちがその社会の役割を見つけて出す一つの方法として、キャリア教育が非常に重要だと考えます。

教育長の教育行政執行方針の中にも書かれているキャリア教育を今後、どのように進めていくのかお聞かせください。

■北川教育長
十数年前から学校では意識的に子どもたちに体験をさせる場を組み入れてきました。その体験による様々な方々とのふれあいを通して自我が芽生え、自分の役割、自己肯定感や人間関係も培われてきたと思います。

町でも比布町学校づくり指針の中でキャリア教育を位置づけ、学校と連携をしながら、地域、家庭、そして行政も関わって体験の場を多く取り入れていく考えであり、その中で子どもたちが様々な体験ができる機会の提供を進めていきます。

■植西議員
キャリア教育で子どもたちが自分の性質を見極め、自分の居場所や社会での役割をもつと把握できるのではないかと考えています。キャリア教育のあり方をどのように考えていますか。

■北川教育長
子どもたちは一人ひとり、それぞれ持つて生まれた良さがあります。その良さを引き出し、のばすことが学校教育だと思っています。学校では子どもたちの、のびしろというものを大事にし、そして、いろいろなことを経験させてあげたいと考えています。

しかし、それを学校の中だけで行うには限界がありますので、そこで補っていくのが地域であると思います。地域の中で子どもたちに様々な経験、体験をさせてあげることが将来、自分がどういう道に進みたいかということにつながっていくと考えています。



子ども体験教室「比布アドベンチャーズ」



植西 浩一 議員